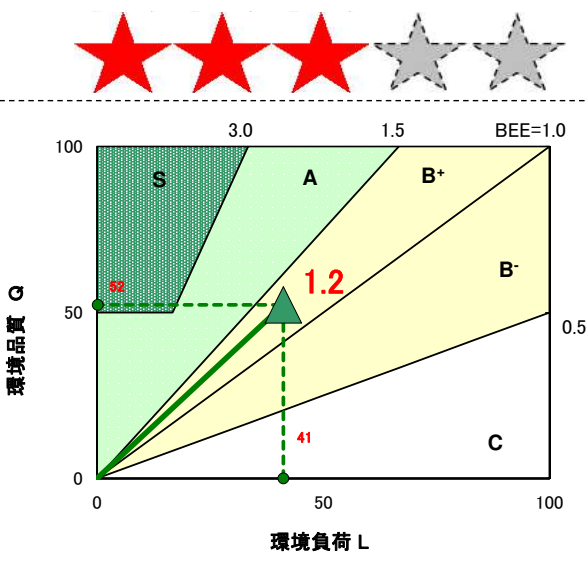


CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	(仮称)大和ハウスリアルティマネジ	階数	地上1F		
建設地	熊本県荒尾市原万田字志賀良町84	構造	S造		
用途地域	第二種住居地域	平均居住人員	800 人		
気候区分	6地域	年間使用時間	6,570 時間/年		
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2022年8月 予定	評価の実施日	2021年11月29日		
敷地面積	7,392 m ²	作成者	村上 幸二		
建築面積	4,218 m ²	確認日	2021年11月29日		
延床面積	4,218 m ²	確認者	本多 章人		

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



環境品質 G

環境負荷 L

BEE = 1.2

■ BEE(環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)

☆☆☆☆☆

排出率

68%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

【重点事項4】 循環型社会の実現

評価点

78

■ 熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	☆☆☆☆☆
80点以上100点未満	☆☆☆☆
60点以上80点未満	☆☆☆☆
40点以上60点未満	☆☆☆☆
40点未満	☆☆☆☆

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)大和ハウスリアルティマネジ	階数	地上1F
建設地	熊本県荒尾市原万田字志賀良町8	構造	S造
用途地域	第二種住居地域	平均居住人員	800 人
地域区分	6地域	年間使用時間	6,570 時間/年(想定値)
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年8月 予定	評価の実施日	2021年11月29日
敷地面積	7,392 m ²	作成者	村上 幸二
建築面積	4,218 m ²	確認日	2021年11月29日
延床面積	4,218 m ²	確認者	本多 章人



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項

重点事項総合評価

評価点 = 78

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 評価点 = 82.5	重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 評価点 = 67.5
重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 評価点 = 75.0	重点事項4: 循環型社会の実現 評価点 = 63.2

重点事項の評価(レーダーチャート)

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE[®]熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

- ・平屋建の計画とし、敷地内及び隣地に十分な駐車場、駐輪場を確保している。
- ・また、段差のない床、出入りしやすい建具、使いやすい衛生器具等を選定し、誰もが使いやすいユニバーサルデザインの施設を心掛けた。

Q1 室内環境

- ・建物利用者が快適に買い物できるよう、温度管理できる空調設備を導入している。

Q2 サービス性能

- ・空間にゆとりを持ち、維持管理や将来の更新性に対応しやすい計画とした。

Q3 室外環境（敷地内）

- ・接する道路からセットバックした配置とし、視認性の確保と圧迫感の軽減に努めた。

LR1 エネルギー

- ・設備機器については省エネ型の機器を採用し、消費エネルギーの低減に努める。

LR2 資源・マテリアル

- ・衛生器具は節水型器具を採用する。
- ・躯体と仕上材を分別できるようにし、将来リサイクルが可能な工法とした。

LR3 敷地外環境

- ・騒音を発生する機器を屋根上に配置し、周囲への影響を軽減する。

その他

CASBEE-建築(新築)2016年版
 (仮称)大和ハウスリアルティマネジメント株式会社貸店舗

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階					
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質							3.0
Q1 室内環境			0.40		-		3.3
1 音環境		3.2	0.15	-	-		3.2
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40	3.0	-		
1.2 遮音		3.0	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能		3.0	1.00	3.0	-		
2 界壁遮音性能		-	-	3.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	3.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	3.0	-		
1.3 吸音	二面に吸音材を使用	4.0	0.20	3.0	-		
2 温熱環境		3.4	0.35	-	-		3.4
2.1 室温制御		4.6	0.50	-	-		
1 室温	冬期22℃,夏期24℃の室温を実現できる設備容量を確保	5.0	0.50	3.0	-		
2 外皮性能		3.0	0.17	3.0	-		
3 ゾーン別制御性	細かな空調ゾーニングを実施している	5.0	0.33	-	-		
2.2 湿度制御		1.0	0.20	3.0	-		
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	-		
3 光・視環境		3.0	0.25	-	-		3.0
3.1 昼光利用		3.0	0.50	-	-		
1 昼光率		-	-	3.0	-		
2 方位別開口		-	-	-	-		
3 昼光利用設備		3.0	1.00	3.0	-		
3.2 グレア対策		-	-	-	-		
1 昼光制御		-	-	3.0	-		
3.3 照度		-	-	3.0	-		
3.4 照明制御		3.0	0.50	3.0	-		
4 空気質環境		3.7	0.25	-	-		3.7
4.1 発生源対策		5.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質	建築基準法を満たす、ほぼ全面的(70%以上)	5.0	1.00	3.0	-		
4.2 換気		2.0	0.30	-	-		
1 換気量		3.0	0.50	3.0	-		
2 自然換気性能		-	-	3.0	-		
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.50	3.0	-		
4.3 運用管理		3.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視		1.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御	店内は禁煙とし、従業員には個別の喫煙室を設けている	5.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-		3.5
1 機能性		3.8	0.40	-	-		3.8
1.1 機能性・使いやすさ		4.0	0.40	-	-		
1 広さ・収納性		-	-	3.0	-		
2 高度情報通信設備対応		-	-	3.0	-		
3 バリアフリー計画	バリアフリー新法の建築物移動等円滑化誘導基準を満たしている	4.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性		3.3	0.30	-	-		
1 広さ感・景観	売場天井高3.5m	4.0	0.33	3.0	-		
2 リフレッシュスペース		2.0	0.33	-	-		
3 内装計画	コンセプトが統一されており、照明と内装を一体で計画している	4.0	0.33	-	-		
1.3 維持管理		4.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計	外部の金属部材はメッキ処理とし、内装は防汚性の高い材料を選定	5.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性		2.9	0.30	-	-		2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	上位3種の2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用	5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性		2.4	0.20	-	-		
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-		
3 電気設備		3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法		1.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			3.9	0.30	-	-	3.9
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	平屋建で水下軒高でGL+4.8mを確保	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.09	5.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.8	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	天井裏のスペースを確保している	4.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	仕上げ材も撤去不要	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	仕上げ材も撤去不要	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	設備機器の更新に対応した仮設スペースが確保できる	4.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制			1.0	0.20	-	-	1.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEIm] = 0.66	5.0	0.50	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			4.0	0.40	-	-	
節水コマなどに加えて、衛生器具は節水型器具を採用							
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.0	0.60	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
-							
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
再生クラシャーラン							
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			4.0	0.20	-	-	
躯体と仕上材が容易に分別可能							
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0、かつGWP(100年値)が1以下	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮			4.2	0.33	-	-	4.2
ライフサイクルCO2排出率68%							
2 地域環境への配慮			2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
発生源におけるガスの濃度が、排出基準より大幅に抑えられている							
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	大店立地法に基づき、適切な量の駐車場、駐輪場の数を確保	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			2.7	0.33	-	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			1.6	0.40	-	-	
1	風害の抑制		1.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	チェックリストの過半、配慮事項の過半	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

熊本県重点評価結果スコアシート 実施設計段階

建物名称 **(仮称)大和ハウスリアルティマネジメント株式会社貸店舗**

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		78
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)	スコア	重み 係数				
① 温室効果ガス排出量削減の推進				82.5	0.40	33.00
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	1.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	5.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				67.5	0.20	13.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	4.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				83.2	0.20	16.64
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.2	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.9	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数)の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①~④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数)の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数